

2022年7月29日 全7頁

## Indicators Update

# 2022年6月鉱工業生産

### 中国でのロックダウン解除により生産指数は急回復

経済調査部 エコノミスト 岸川 和馬

#### [要約]

- 2022年6月の生産指数は前月比+8.9%と3カ月ぶりに上昇し、市場予想（同+4.0%、Bloomberg調査）を大きく上回った。部品調達難の緩和による国内生産の復調が想定以上に早く、中国でのロックダウン（都市封鎖）による5月の急落を補って余りある回復となった。経済産業省は基調判断を「一進一退」に上方修正した。
- 先行きの生産指数は横ばい圏で推移するとみている。集積回路の在庫の積み上がりや中国でのロックダウン解除を背景に、自動車工業などで持ち直しが継続しよう。他方、国内での新型コロナウイルス感染拡大や、中国でのロックダウン再導入による部品調達難、欧米での利上げによる外需の縮小などが生産指数を下押しする可能性には注意が必要だ。
- 8月5日に公表予定の6月分の景気動向指数は先行CIが前月差▲1.1ptの100.1、一致CIが同+4.1ptの99.0と予想する。予測値に基づくと、一致CIによる基調判断は機械的に「改善」に据え置かれる。

**図表1：鉱工業指数の概況（季節調整済み前月比、%）**

	2021年		2022年					6月	7月	8月
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月			
鉱工業生産	+5.0	+0.2	▲2.4	+2.0	+0.3	▲1.5	▲7.5	+8.9		
コンセンサス								+4.0		
DIR予想								+4.4		
生産予測調査									+3.8	+6.0
補正值(最頻値)									▲0.9	
出荷	+5.4	+0.2	▲1.5	+0.0	+0.6	▲0.3	▲4.1	+4.6		
在庫	+1.4	+0.1	▲0.7	+2.1	▲0.4	▲2.3	▲0.9	+2.1		
在庫率	▲1.5	▲0.3	+1.4	+2.0	+0.6	▲2.8	+3.1	▲1.0		

(注) コンセンサスはBloomberg。

(出所) Bloomberg、経済産業省統計より大和総研作成

## 【生産】部品調達難の緩和により自動車工業や関連業種が持ち直し

2022年6月の生産指数は前月比+8.9%と3カ月ぶりに上昇し、市場予想（同+4.0%、Bloomberg調査）を大きく上回った。2022年3月以来の水準となり、中国でのロックダウン（都市封鎖）による5月の急落を補って余りある回復となった。部品調達難の緩和による国内生産の復調が想定以上に早いとみられる。経済産業省は基調判断を「一進一退」に上方修正した。

生産指数を業種別に見ると、15業種中11業種が前月から上昇、4業種が低下した。自動車工業（前月比+14.0%）が生産指数を1.88%pt押し上げた。中国でのロックダウン解除によって部品調達難が緩和されたことが主因だ。電気・情報通信機械工業（同+11.0%）では、国内事業者向けの基地局通信装置が増加したほか、自動車の増産に伴う部品需要の回復によって自動車用電気照明器具などが増加した。また、電子部品・デバイス工業（同+11.4%）や生産用機械工業（同+7.4%）なども増加に転じ、全体を押し上げた。

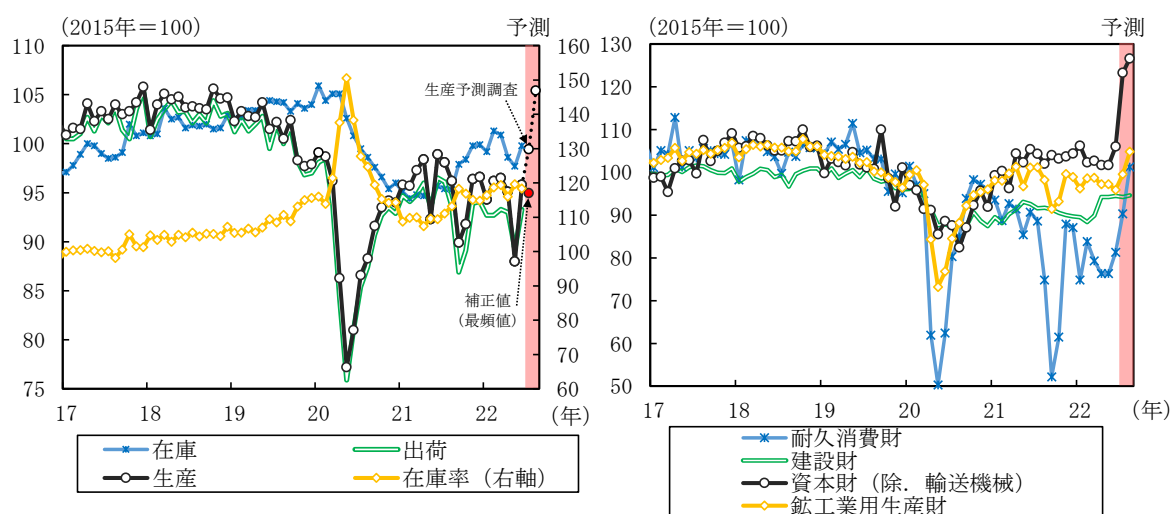
財別では、生産財（前月比+5.5%）、耐久消費財（同+16.5%）、資本財（除. 輸送機械）（同+5.7%）、建設財（同+2.1%）が上昇した一方、非耐久消費財（同▲0.4%）は低下した。

## 【出荷・在庫】自動車生産の急回復により在庫指数が上昇

6月の出荷指数は前月比+4.6%と3カ月ぶりに上昇した。業種別では自動車工業、電気・情報通信機械工業、生産用機械工業など、15業種中13業種が押し上げた。生産と同様に自動車工業が全体をけん引したほか、車載用のリチウムイオン蓄電池の需要増も支えとなった。財別では生産財、耐久消費財、資本財（除. 輸送機械）、建設財が上昇し、非耐久消費財は低下した。

在庫指数は前月比+2.1%と4カ月ぶりに上昇した。自動車の増産によって自動車工業の在庫指数が急上昇し、全体を2.51%pt押し上げた。他方、在庫指数よりも出荷指数の上昇幅が大きかったことから、在庫率指数は同▲1.0%と2カ月ぶりに低下した。

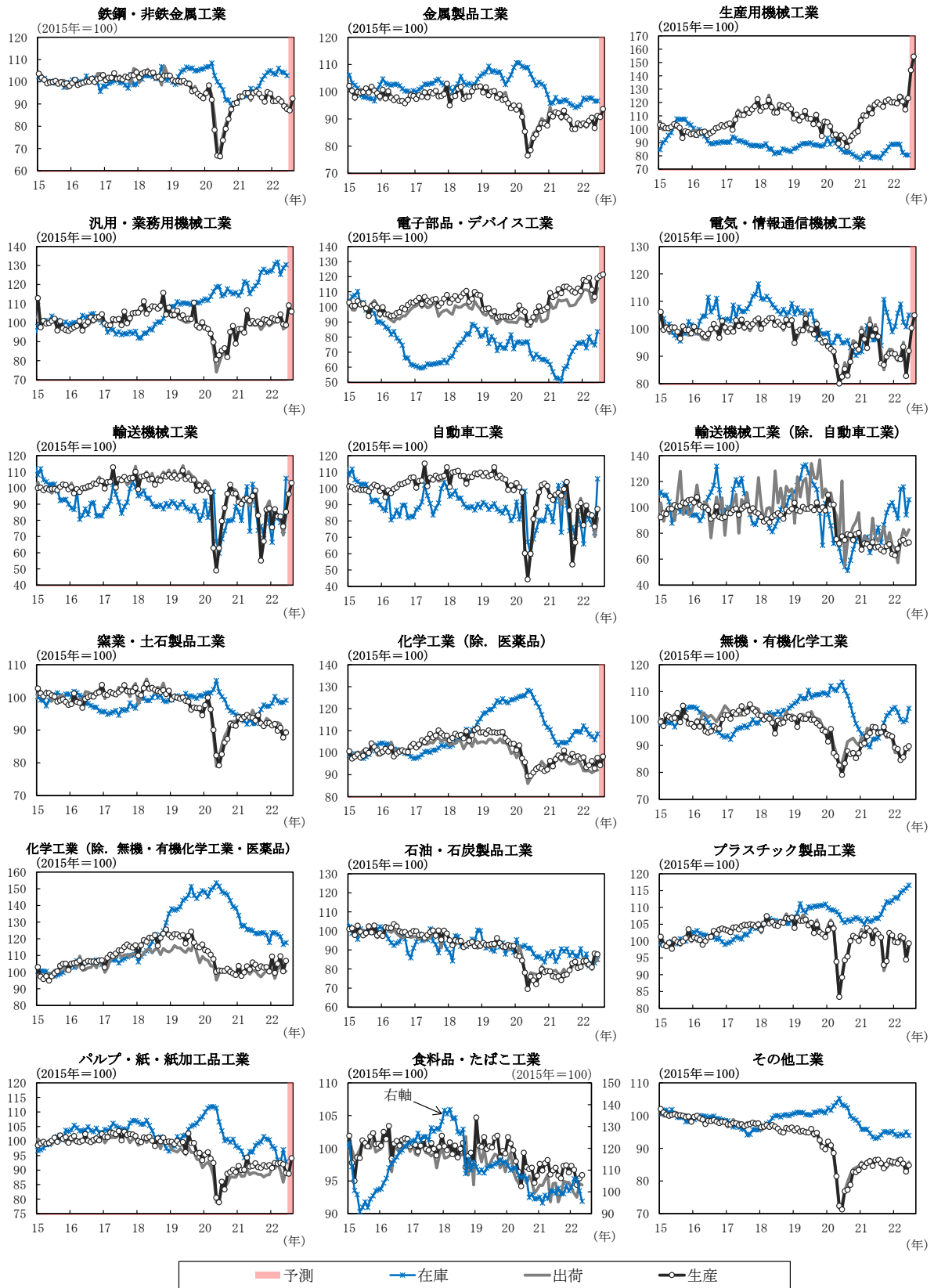
図表2：鉱工業の生産・出荷・在庫（左）と財別の生産（右）



（注）生産指数の予測値（赤色）は、製造工業生産予測指数の補正值（最頻値）。そのほかシャドー部分の値は、製造工業生産予測調査による。

（出所）内閣府、経済産業省統計より大和総研作成

図表3：業種別 生産・出荷・在庫の推移



(注1) 生産指数の予測値は、製造工業生産予測調査。化学工業（除. 医薬品）の予測数値は、化学工業全体の予測数値を使用。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

## 【先行き】部品調達難の緩和による好影響と国内外の感染拡大などによる悪影響が混在

先行きの生産指数は横ばい圏で推移するとみている。供給制約の緩和や対中輸出の回復を受け、ウエイトの高い自動車工業などの持ち直しが続く一方、国内外での新型コロナウイルスの感染拡大や欧米での利上げなどが下押し要因となろう。

自動車生産についてホンダやトヨタ自動車は8月も減産を行うと発表した。トヨタの減産台数は国内で5万台と、2022年初から徐々に小規模化している。減産の理由は半導体不足や中国でのロックダウンによる物流の混乱だが、足元では集積回路の在庫指数が急上昇しており、生産工程の川上では半導体不足の緩和が進んでいることが示唆される。また、6月以降は中国で大規模かつ長期間のロックダウンが実施されておらず、物流の混乱も解消に向かうとみられる。

他方、依然としてリスク要因は多い。国内ではオミクロン株の亜種「BA.5」が流行しており、足元では「BA.2.75」も警戒されている。Google社<sup>1</sup>によれば、このところの職場への人出は「第6波」が発生した年初ほどには減少していないが、「第7波」の収束が見通せない中では工場への出勤停止などによる企業活動の停滞リスクがある。加えて海外情勢も不安定だ。「ゼロコロナ政策」を掲げる中国政府が再び大規模なロックダウンに踏み切れば、部品調達難などが再発生する可能性がある。また、欧米ではFRBやECBによる急ピッチの利上げが景気減速を招くとの懸念が強く、外需の縮小による日本からの輸出減が国内生産の委縮を招くリスクにも注意が必要だ。

製造工業生産予測調査によると、7月は前月比+3.8%と見込まれているものの、計画のバイアスを補正した試算値（最頻値）は同▲0.9%と小幅な減産を示唆している。業種別では、11業種中5業種が増産の計画である。外需の影響を受けやすい生産用機械工業（同+17.0%）や輸送機械工業（同+12.9%）などがけん引役となる見込みだが、上述の通り外需の先行き不透明感は強い。

8月は前月比+6.0%の増産が見込まれている。輸送機械工業（同+7.1%）の持ち直しが継続するほか、生産用機械工業（同+7.1%）や化学工業（同+4.2%）などが増産となる見込みだ。

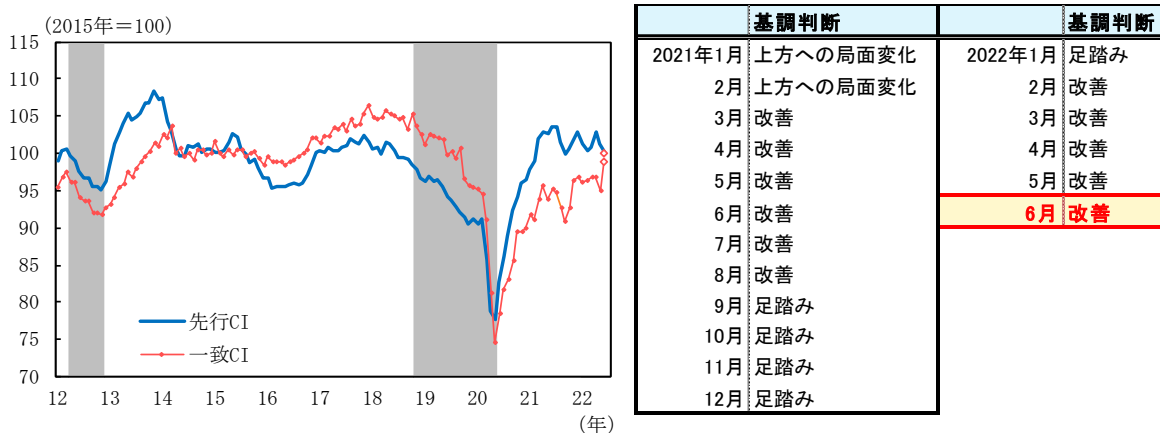
<sup>1</sup> <https://www.google.com/covid19/mobility/>

## 【6月景気動向指数】一致CIの上昇を受け基調判断は「改善」に据え置きか

鉱工業指数の結果を受け、8月5日に公表予定の6月分の景気動向指数は先行CIが前月差▲1.1ptの100.1、一致CIが同+4.1ptの99.0と予想する（**図表4**）。先行CIでは構成指標のうち、最終需要財在庫率指数やマネースtock（M2）（前月比）などが改善した。また一致CIでは構成指標のうち、耐久消費財出荷指数や鉱工業用生産財出荷指数、生産指数（鉱工業）などが改善した。これらの予測値に基づくと、6月は機械的に「改善」に据え置かれる。

先行きの経済活動では、国内での感染拡大が続く中でも行動制限が回避され、サービス消費の回復を軸に持ち直しが継続するとみている。上述した自動車生産の持ち直しも支えとなり、7-9月期の実質GDPは比較的高い成長率を実現することが予想される<sup>2</sup>。ただし、これはあくまでも国内での行動制限や中国でのロックダウンが実施されない場合の見通しだ。過去の経済活動への影響を考慮すれば、これらの措置が再導入された場合、経済成長率は大幅に低下するだろう。

図表4：景気動向指数（先行CI、一致CI）と基調判断の推移



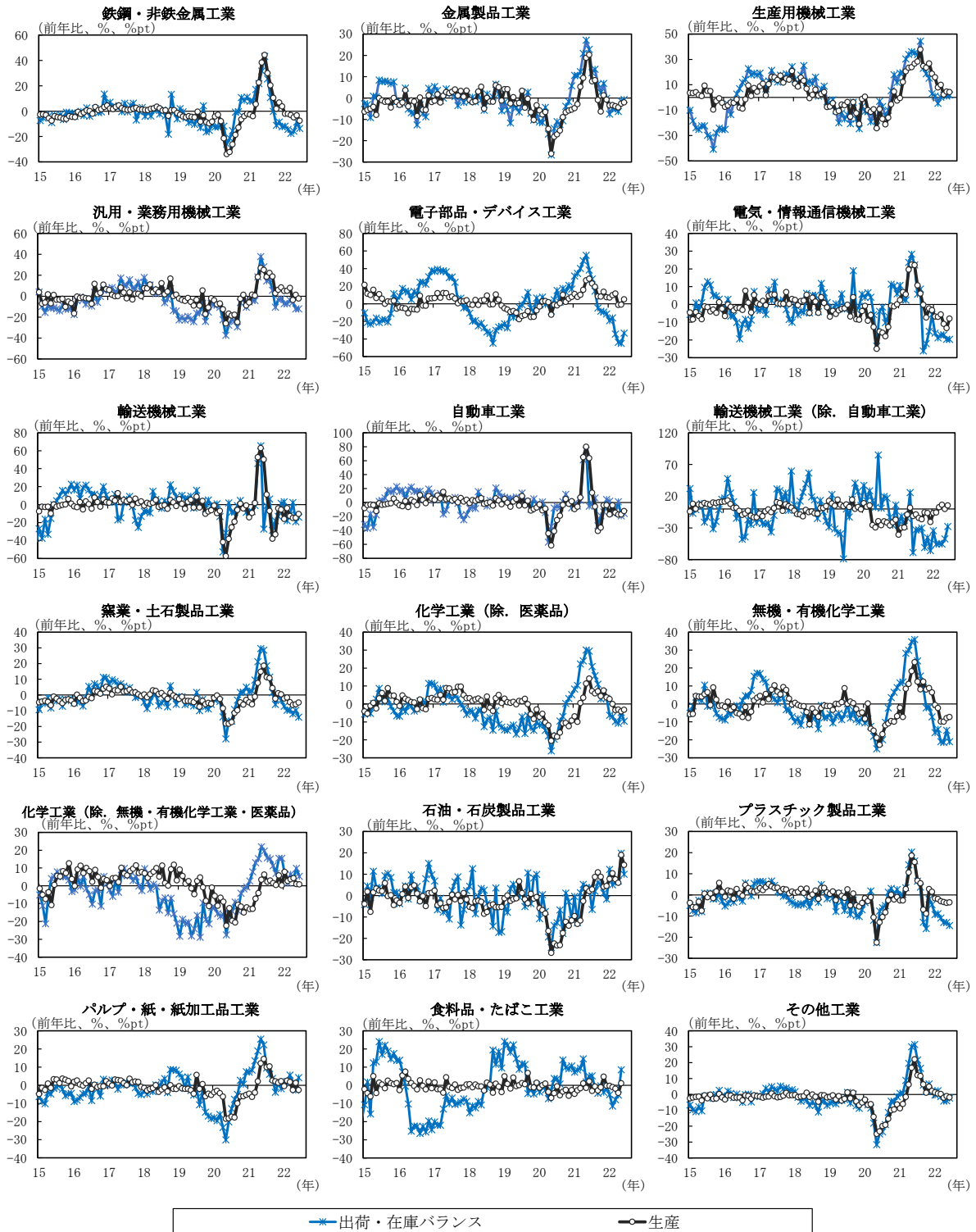
（注1）左図の直近は大和総研による予測値。右図の2022年6月の基調判断は大和総研予想。

（注2）シャドーは景気後退期。

（出所）内閣府統計より大和総研作成

<sup>2</sup> 詳細は神田慶司、小林若葉、岸川和馬「[日本経済見通し：2022年7月](#)」（大和総研レポート、2022年7月20日）を参照。

## 業種別 出荷・在庫バランスと生産



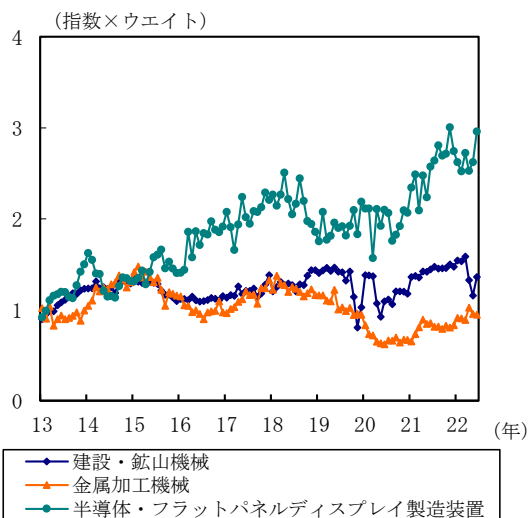
(注1) 出荷・在庫バランス＝出荷前年比－在庫前年比。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

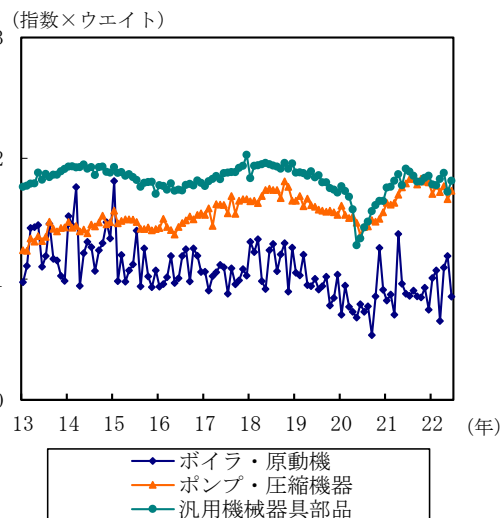
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

## 主要産業の生産動向(季節調整値)

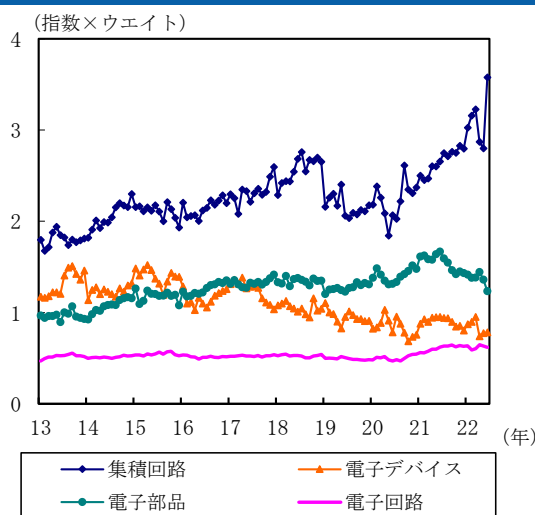
### 生産用機械



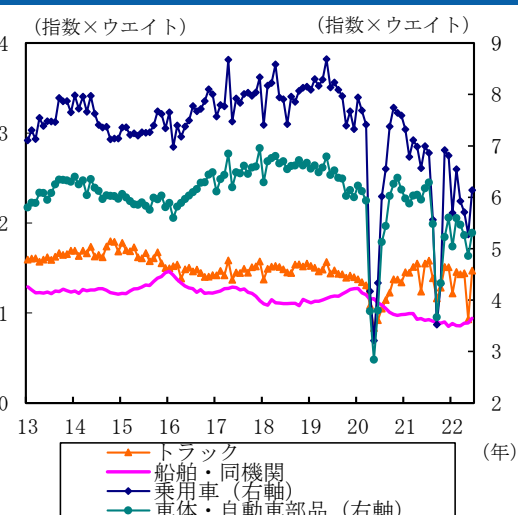
### 汎用・業務用機械



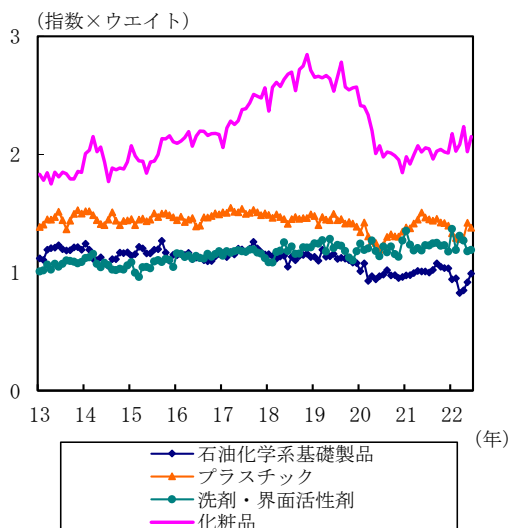
### 電子部品・デバイス



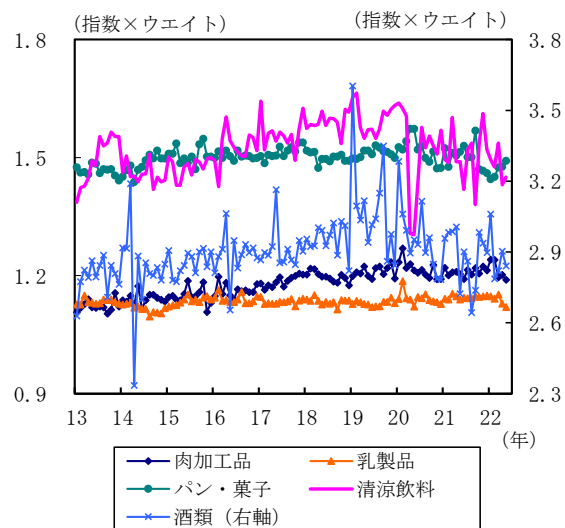
### 輸送機械



### 化学



### 食料品・たばこ工業



(注) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため、直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成